

## ふくせん様式の改訂

ガイドラインの検討の中で、本会で福祉用具の計画的なサービス提供を支援するためのツールとして示している、ふくせん版「福祉用具サービス計画書(基本情報)」、「福祉用具サービス計画書(利用計画)」、「モニタリングシート」の3つについて改訂を行う必要性が指摘されたことから、ガイドラインのとりまとめと併せて、これらの様式の改訂を行った。

各様式の改訂のポイントは以下の通りである。なお、各様式の改訂版及び記載項目・記載要領は、「福祉用具サービス計画作成ガイドライン」(別添資料を参照)にて示している。

### ① 基本情報の様式の改訂ポイント

#### a) 身体状況・ADLに関する項目・選択肢の追加

身体状況・ADLについて記載欄を追加した。「屋内歩行」、「屋外歩行」、「食事」、「更衣」、「視覚・聴覚」)

「寝返り」「起き上がり」「立ち上がり」について、「一部介助」を追加し、3段階であった選択肢を他の項目と同様の4段階に修正した。

「障害者日常生活自立度」「認知症の日常生活自立度」について、介護環境から身体状況・ADLに移動した。

#### b) 介護環境の欄の配置変更

介護環境の把握において、重要度の高い「家族構成・主介護者」欄が上に来るように移動した。

#### c) 介護環境と意欲・意向の記載欄の整理

アセスメントにおいては、利用者の意欲・意向の把握が重要であることから、「介護環境」に含まれていた「利用者の気持ち(意欲・意向)、今困っていること(福祉用具で期待すること等)」について、「意欲・意向」として独立させた。

### ② 利用計画の様式の改訂ポイント

#### a) 「生活全般の解決すべき課題・ニーズ(福祉用具が必要な理由)」欄の分割

生活全般の解決すべき課題・ニーズ(福祉用具が必要な理由)が複数ある場合に区別しやすいように、記載欄を分割した。

#### b) 「福祉用具利用目標」欄の分割

生活全般の解決すべき課題・ニーズ(福祉用具が必要な理由)が複数ある場合、それぞれの課題・ニーズに対応して福祉用具利用目標を記載しやすいように、記載欄を分割した。

### c) 利用者への説明文の見直し

改訂前の「以上、福祉用具サービス計画書に基づき、サービス提供を行います。」という記載について、計画の説明・同意・交付に関するプロセスがより明確になるよう、「以上、福祉用具サービス計画の内容について説明を受け、内容に同意し、計画書の交付を受けました。」に変更した。

## ③ モニタリングシートの改訂ポイント

### a) 「利用目標」と「目標達成度」の欄の配置の変更

利用目標と目標達成度の関連性が分かりやすいよう、「福祉用具利用目標」欄の横に「目標達成度」欄を配置した。

また福祉用具サービス計画書(利用計画)で記載した利用目標ごとに目標達成度が記載出来るように、「福祉用具利用目標」欄と「目標達成度」欄を4つに分割した。

### b) 点検結果に関する欄の統合

「点検」欄と「点検結果」欄を統合し、「点検結果」欄とした。

### c) 「今後の方針」欄の追加

種目毎に今後の方針が記載できるよう、今後の方針欄を作成した。選択肢として「継続」「再検討」の2つを設けた上で、その理由等について記載出来る欄を設けた。

### d) ご利用者・ご家族への聞き取り

「使いにくさ・利用中に困ったこと」、「ご利用者・ご家族の希望など」は、他の記載欄との内容の重複が多いことから削除した。

### e) 「総合確認の結果」欄の名称の見直し

「専門相談員による総合確認の結果(自由記載)欄」を、「総合評価」と改めて、スペースを拡大した。

### f) 切り取り線の廃止

利用者へ手渡すことを想定して下部に切り取り線を設けていたが、モニタリングの記録は利用者への交付の義務がなく、本モニタリングシートは福祉用具専門相談員がモニタリングを適切に実施できるように支援するツールとして位置づけを明確化したことから、切り取り線を廃止した。